

クラスター対策からわかったこと

斉藤 繭子 (東北大学大学院 医学系研究科 准教授)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は2019年12月に中国で流行した後、グローバル化した世界に急速に広がり、感染者数の増加が続いている。有効な治療薬や、ワクチンが開発途中である現状では、多くの国で感染者を隔離し、外出自粛や禁止令、交通の遮断による感染連鎖を断ち切る手段をとった。しかし、世界的に流行地が拡大した現状では一地域で一時的に感染者を制御できても、社会生活の再開により感染者が増加することは避けられない。

新型コロナウイルスの感染伝播の特徴については徐々に明らかとなっており、2000年以降経験されてきた他の新興感染症とは流行パターンや臨床像が違うことが明らかにされている。日本の保健所では、感染者が見つかった際に積極的疫学調査と呼ばれるインタビューを主体とした調査を行っており、COVID-19のクラスター対策の根幹となっている。これには見つかった感染者に感染させた感染源を特定することと、その感染者が既に感染させた可能性がある接触者を特定することの2つの主な目的が含まれている。この調査は各地の流行拡大を防いできただけでなく、新興感染症であり情報の少ないCOVID-19の流行パターンを理解するヒントを提供してきてきた。感染源を辿ることで感染リスクが高い状況、例えば多くの人への感染拡大 (クラスターの発生) の感染源となった人 (Super Spreader) がどのような疫学的背景や臨床的特徴を持つ人であるか、どのような行動パターンが感染伝播に関わるのか推定し、感染が広がったイベントや人の集まりの類型化をすること、さらなる感染拡大を未然に阻止すること、感染者を効率的に検出すること、地域の政策や行動変容に役立てることなどが可能になる。一方で、無症候や軽症例の多いCOVID-19における感染源の特定の難しさ、予防や調査におけるコミュニケーションや情報公開の難しさ、“人が集まる活動”の情報収集を欠かさないと迅速な対応の重要性も浮き彫りになっている。

死亡リスクの高い高齢者や慢性疾患の罹患者の多い病院や介護施設では、感染がどのように持ち込まれたかが特定されない例も多く、そのような施設での感染を防ぐためには、そこへ繋がる前に連鎖を断ち切ることが重症例や死亡例に歯止めをかける重要な要素になる。これまでの調査から得られた情報を最大限に生かしつつ、世界の各地域でも引き続きエビデンスを蓄積していくことが重要になる。



Online Seminar Series: Seminar Series by Tohoku University WISE Programs "Create the New Normal"

[WEB] <http://www.tfc.tohoku.ac.jp/other-activities/online-seminars/2020cov.html>

1st Seminar: What is COVID-19?

[WEB] http://www.tfc.tohoku.ac.jp/online_event/2020cov/01/